



顔の見える行政を目指します

新大館市が6月20日に誕生してから、2カ月ほどが経過しました。皆さんの暮らしはどうなったでしょうか。

特に、比内地域・田代地域の皆さんは、自分たちの町がどうなるのか不安を感じていたことと思います。その不安を少しでも解消するために、地域づくり団体などと相談し、7月末から、両地域へ赴き、地域の皆さんとの懇談会に出席しています。堅苦しいことは一まず抜きにして、お互いがひざを交えて、直接話し合える場となるよう心掛けています。

各会場で皆さんから伺うのは「合併しても、今のところ大きな変化が無い」と言う言葉です。実はこの言葉が大変重要な意味を示しています。もし合併という選択をしなければ、負担が増したり、サービスが低下したりといった可能性があります。そうした中で、多くのかたが合併を選択したわけです。大館地域の皆さんはそんなに不安は無かったかと思いますが、比内・田代地域の皆さんは、いったいどうなるのだろうかという不安を抱いていたことと思います。それが、いざ合併してみても、これまでの生活に大きな変化が無いということは、とても大切なことだと思います。

ともすれば、中心部の大館地域のみが発展していくのではないかと危惧されているかと思えます。しかし、元々の大館も、田代地域・比内地域と同様に、各地域のいろいろな集落の集合体です。これまでも、昔からの集落、地域が無くなったわけではありません。各地域の特色ある機能が働き、結びついて地域が維持されています。

各地域の課題をそれぞれの地域で考えていくより、新大館市全体で対応していくことの方が、より良い策を導き出すことが出来ます。合併のメリットは、まさにここにあるわけです。

これからも、比内・田代地域のみならず、市民の皆さんとの対話を続け、顔の見える行政を目指していきます。みんなで「私たちのまち・大館」を盛り上げていきましょう。

小畑 元



越山地区で行われた懇談会（7月25日）

# 大館市下水道展



10月2日(日) 9時30分~16時  
いとく大館  
ショッピングセンター

お子さまも楽しめるイベントを用意しています。これから水洗化を考えているかた、現在下水道を使用していて困っているかたなど、どんな相談もお受けします。ご来場のかたには、記念品を差し上げますので、ご家族みなまでおいでください。

## 《内容》

- 「下水道のしくみ」パネル展
- 微生物コーナー
- 下水道いろいろコンクール作品展
- 下水道相談コーナー
- 風船プレゼント

## 処理場で活躍する微生物

大館市の公共下水道で運ばれる汚水は、川口地内にある県の処理場（県米代川流域下水道大館処理センター）で処理されます。処理場ではたくさんの微生物が活躍して、汚水をきれいな水に変えてくれます。

下の微生物は、「水処理の状態が良い時」の代表選手で、個体数も多く通年観察されます。

下水道展では、たくさんの微生物が実際に活躍する様子を見ることが出来ますよ。



### アスピディスカ

和名/メンガタミズケムシ  
大きさ/0.04mm

テントウムシみたいな形で、固まり状となった汚泥の周囲を忙しく動いています。



### ボルティケラ

和名/ツリガネムシ  
大きさ/0.06mm

形が釣り鐘に似ているので、ツリガネムシとも呼ばれています。細菌類を捕食します。